

戦略教材開発物語

【マル秘メルマガ】より 16 通目その 1



◆ 8. スタジオでの録音開始

原稿が完成したあと、次の作業はスタジオでの録音になります。読んでもらう原稿の内容と、声の質が合うナレーターさんを探してスタジオで読んでもらうのですが、これがまた大変なのです。

録音ズミのもので「1時間」の量があるものを作るには「3時間」は見ておかなければなりませんから、1日に1巻しかできません。

マスターテープができるとそれをカセットテープに録音してもらい、これをチェックします。自分の事務所で冷静に聞くと原稿に間違いがあることに気付くので、次の朗読のときにそこを読み直してもらいます。

今の録音はコンピューターに入力したあとデジタルで処理するために、原稿の間違いがあってもそこを修正するのは比較的簡単です。

ところが当時の録音は「オープンリール」という放送局用と同じテープを使っていたために、修正をするときは、まず間違っている所をハサミで切り取ります。

そのあと読み直したものをつないでいくということになるので、ほんの少し直すだけでも大変な時間がかかるのです。

録音を始めた当時はバブル経済がはじけてはいましたが、まだ景気が良かったので録音スタジオがふさがっていることが多く、録音作業は思いどおりに進みませんでした。

スタジオでの録音作業が終わると、そのあとはテープに貼り付けるラベルの印刷と、テープケースの中に入れるジャケットのデザインと印刷が必要になります。

これと並行してテキストを作るための原稿整理や図表書き、さらに目次作りなどの作業も発生します。

テキスト用の原稿作りが終わったら、それを印刷会社に渡します。そのあと校正作業で何日かつぶれてしまいます。これが終わったら今度は出荷をするための、段ボールケースの注文も必要になります。

これらはすべて私1人でやりましたから、1年間は目が回るような忙しさでした。

こうした作業をするには、当然支払をしなければなりません。

サラリーマン時代から貯めていた貯金と、独立後に講演で稼いだお金を合わせ、教材の開発資金として「8,000万円」を用意していました。

主な支払先としては、リライト業者への支払いを初めとして、ナレーターさんへの支払い、録音スタジオへの支払い、テキストを印刷する印刷会社への支払いがあります。

この中で1番多かったのは印刷会社への支払いでした。

テキストはハードカバーの良いものにしたので、1つのテーマだけで250万円ぐらいかかりました。14種類のテキストを作ると印刷費だけで3,500万円になります。

これらに対して支払いを始めたら、8,000万円用意していた貯金があればあれよあれよという間に減っていき貯金の残高はほんのわずかになってしまいました。

このままでは資金が底をついて、経営テープ作りができなくなります。

そこで、経営の大事なところの10種類だけを完成させ、残りは保留にして仕上げを急ぐことにしました。

マスターテープは東京でカセットテープをコピーする専門の会社に送るとともに、テープの始まりと中間、それに終わりには音楽を入れてもらって聞きやすくしてもらいました。

完成品が送られてくると、それを写真にとってカタログ作りにとりかかりますが、数が多いのでこれも結構時間がかかりました。

カタログを作るとき私の顔写真があるので、知り合いの写真屋に行って写真を撮ってもらいました。

何日か後に写真を受け取りに行くと、何故か「代金はいらない」というのです。私がやせこけていて今にも死にそうな顔をしているので「多分竹田さんは長くないだろう。写真代は 香典変わりにサービスしておこう」と思ったらしいのです。

もらった写真を見ると、確かに今にも死にそうな顔をしていました。

(続く)

Lanchester

ランチェスター経営(株)



〒810-0012 福岡市中央区白金1-1-8 チュリス薬院 301

TEL 092-535-3311 FAX 092-535-3200

メールアドレス customer@lanchest.co.jp HP <https://www.lanchest.com>